

FUKUVI 

第89期  
事業報告書

令和4年4月1日から  
令和5年3月31日まで

 フクビ化学工業株式会社

証券コード:7871

# 「ESG\*を経営の中核に据えた事業運営」を 推進し、長期的な成長と企業価値の さらなる向上を図る。

株主、投資家の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

ここに令和5年3月期の事業の概況につきまして、ご報告申しあげます。

代表取締役社長 **八木誠一郎**



\*環境(E:Environment)、社会(S:Social)、ガバナンス(G:Governance)

### Q 令和5年3月期のフクビ化学は、 どのような1年でしたか？

A 当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大防止と経済活動の両立が図られ、緩やかに回復が進む展開となりました。しかしながら、ウクライナ情勢等の不透明感や急激な円安の進行から、エネルギーコストや原材料価格の高騰による物価上昇の家計への影響、供給面での制約等に注意が必要な状況で推移しました。

住宅業界においては、材料高による建築費の上昇や建築資材の供給不足等の影響もあり、令和4年度の新設住宅着工戸数は、戸数861千戸(前年比0.6%減)、床面積68,651千㎡(同3.5%減)となりました。

このような環境の下、当社グループでは、第6次中期経営計画「FUKUVI NEXT」最終年度を以下に掲げた3つの基本方針に基づき取り組みました。

#### ・成長分野への積極展開

主力の建築資材分野では、戦略的に攻める製品や分野を定めて顧客に価値を訴求する販売活動を強化しました。中でも環境配慮型商品ブランド「Fukuvalue」のラインナップである人工木材「プラスッド」は、大型案件の販売強化が受注に繋がりました。また新たに「東京の木多摩産材」を使用した人工木材「プラスッド-TM」をブランドに加え、令和4年12月より販売開始しました。米国においては、「Victory Bear」ブランドを中心とした高付加価値製品分野への転換を推進し、ベトナムおよびタイでは建材ビジネス基盤の構築に向けて現地ローカル代理店と

の販売強化に取り組みました。新事業分野では、まちづくり事業を推進すべく屋外空間向けブランド『ファンダライン』の認知度拡大に向けた展示会出展やアイテム拡充に取り組みました。

#### ・収益構造の改革推進による利益の創造

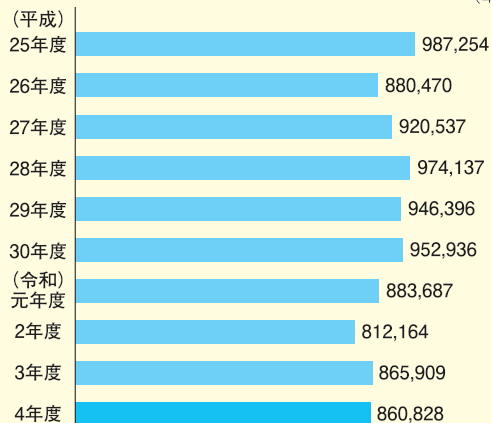
原材料、エネルギー価格が高騰する中、価格改定や販管費・原価低減活動に取り組みました。物流費関連においては、費用の見える化や運送方法の改善検討を全社横断で取り組んだ結果、計画を上回る成果に繋げることができました。また、事業ポートフォリオ再構築の観点から、建材事業本部、CSE事業本部各々で注力分野への積極展開や不採算分野の見直しに継続的に取り組んでいます。

#### ・挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

基幹システム(ERP)と管理会計システムの導入のプロセスを通じて、収益構造の改革や、業務の効率化などに継続して取り組んでいます。また、人事面では、挑戦を後押しする仕組みを人事評価制度に取り入れるなどして従業員エンゲージメントのさらなる向上を図っています。また、社会に貢献するSDGsの取り組みでは、自社製品製造過程におけるCO<sub>2</sub>排出量算定の取り組みに着手しています。

### 全国新設住宅着工戸数の推移

(単位:戸数)



(出典:国土交通省)

以上により、当連結会計年度の売上高は、395億67百万円と、前期に比べ7.7%の増収となりました。



## 中期経営計画について 教えてください。

当社グループでは、令和5年度より5ヶ年の第7次中期経営計画がスタートしています。中長期ビジョンのあるべき姿「新たな技術開発と市場創造に絶え間なく挑戦し、快適な社会の実現に貢献する」「一人一人の成長と企業の成長が一体となることで、喜びを実感できるフクビグループを目指す」に対し、現状とのギャップを埋めるための戦略と位置付けました。企業理念に立脚した事業活動を具現化することによって、企業としての存在価値を高めるとともに、VUCAの時代において安定的な経営を目指すため、3つの基本戦略を掲げました。

### ①循環型ビジネス拡大

- ・プラスチックリサイクルへ事業領域を拡大し、循環型社会に貢献する。
- ・環境配慮型商品のブランド展開とフクビの5R(Reduce、Reuse、Recycle、Renewable、Revalue)実践によりグループの存在感を高める。

### ②強靱な収益基盤構築

- ・当社の強みである、材料配合・成形加工技術に関するバリューポジションをさらに拡大する。
- ・社会のニーズに沿った商品開発や採算性を意識した事業PFの再構築、生産性向上によるさらなる原価低減を通じて付加価値をさらに高める。

### ③成長を後押しする組織づくり

- ・人的資本への積極的取り組みにより、従業員エンゲージメントを高め、社員の力が最大限発揮できる清新な組織への改革を加速させる。
- ・戦略を確実に実行するためのガバナンス体制を強化する。

当社グループは、上記諸施策を推進することで100年企業へ向けた強固な基盤づくりを行い、さらには、地域の皆さまや社会に貢献する経営を継続することで、常にステークホルダーに信頼され、選ばれ続ける企業を目指します。

# トップインタビュー



## 今後の対処すべき課題について教えてください。

新型コロナウイルスの影響が正常化される中で、ロシア・ウクライナ問題が長期化し、世界的インフレが進むなど社会環境において不確実性がさらに高まっています。そのような変化の中で持続的成長を維持していくためには革新的な企業改革を行いつつ、社会や環境に配慮したビジネス活動を推進していくことが重要になってきており、フクビグループの事業活動を通じ、社会貢献することで長期的な発展を目指します。

しかしながら、長期的な成長と企業価値をさらに高めていくには、以下のような解決すべき課題があると認識しております。

### ① ESGを経営の中核に据えた事業運営への転換

企業の社会的責任がますます重くなる中で、今後もサステナブルな企業であり続けるため、これまで以上にESGを意識した取り組みを進めます。企業理念「企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する」に立脚した事業活動を具現化し、企業としての存在価値を高め、環境・社会・企業統治の問題に意識を向けることでリスクの予測や対応を行いやすい安定的な経営を目指します。

### ② 成長するための事業戦略立案と推進

今般より新たに第7次中期経営計画を策定しました。3つの基本戦略「循環型ビジネス拡大」「強靱な収益基盤構築」「成長を後押しする組織づくり」に則り、社会・環境を配慮した企業責任のもと、各事業で具体的施策を設定し、確実に実行することで外部環境に左右されない新たな価値を創造していきます。中でも既存事業の周辺領域、または新規事業への取り組みを加速し、グループ会社全体の成長に繋げてまいります。

### ③ サステナビリティ経営の推進・強化

サステナビリティ経営をさらに推進・強化すべく、組織・体制を整備し「サステナビリティ推進室」の新設と「サステナビリティ委員会」を立ち上げます。この委員会ではESGに関する情報の収集・分析を行い、持続可能な企業価値の向上に向けた施策を立案、実行していきます。また、サステナビリティに関する情報の開示やステークホルダーとのコミュニケーションの

強化を目指し、持続可能な社会の実現に向けた役割を果たしていきます。

### ④ 持続的な成長を支える体制整備

持続的成長を支える体制として、サステナビリティ推進室以外に常に新しいビジネスを探索する部署として、新事業企画室を新設しました。変化の激しい時代の中で、新たな芽を探求し続けてまいります。また、リスクマネジメントの強化を引き続き行います。地政学リスクやその他リスクに向け、順次BCP策定を進め、体制整備を図ります。



## 最後に、株主様へのメッセージをお願いいたします。

当グループが主要マーケットとする住宅業界は、原材料価格高騰を背景とした建築価格上昇が消費マインドに与える影響などを要因として、今後も新設住宅着工戸数の伸びは弱含むと予想されます。一方で、環境に配慮した住宅の市場は成長が見込まれ、また、非住宅、リフォーム分野でも伸長の余地があることから、顧客の求めるニーズに真摯に耳を傾けて新たな市場を創造する必要があると考えています。

令和5年度より新たにスタートする第7次中期経営計画における3つの基本戦略「循環型ビジネス拡大」「強靱な収益基盤構築」「成長を後押しする組織づくり」を積極的に推し進めることで令和6年3月期の連結業績は、売上高407億30百万円、営業利益16億80百万円、経常利益19億20百万円、親会社株主に帰属する当期純利益14億90百万円を予想しています。

今後も中長期を見据えた計画の着実な実行により株主や投資家の皆様のご期待に応える企業へと成長を果たす所存ですので、格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 2022年11月～2023年5月の 主なTOPICS

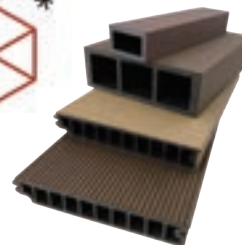
当社グループが事業活動を通じて達成を目指す主なSDGs目標



## 「プラスッド-TM」を発売しました

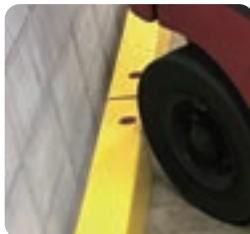
2022年  
11月25日

「東京の木多摩産材」を使用した人工木材「プラスッド-TM」を昨年より受注販売開始しました。東京多摩地域の森林から生産され、多摩産材認証協議会が産地証明した木材を「東京の木多摩産材」といい、東京都は地域の木材である多摩産材の利用を進めています。当社は従来から好評をいただいている人工木材プラスッド(福井県産材入り)に加え、新たに東京都での地産地消を実現し、「とうきょうの木」の普及に役立ち、多摩地区の地域振興に貢献したいとの考えから、多摩産材入り人工木材「プラスッド-TM」を新たにラインナップしました。原料には、建材として利用されない多摩産材の間伐材を木粉化し樹脂と混合し成形することで、天然の木材の良さとプラスチックの耐久性、成形性という長所を併せ持ちます。また木材を原料に使用することで、木材内の二酸化炭素を固定化し、カーボンニュートラルに貢献いたします。



## 「樹脂製フォークガード175」を発売しました

2022年  
12月12日



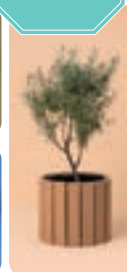
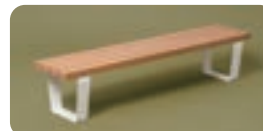
物流不動産のリーディンググローバル企業であるプロロジス(東京都千代田区 代表取締役会長 兼 CEO 山田 御酒)と、物流倉庫用の樹脂製のフォークガードを共同開発し、ブランド販売を開始しました。フォークガード材は鋼鉄製が一般的ですが、衝突した際に傷の塗りなおしなどの補修が必要となり、またフォークリフトに傷がついてしまうという課題があります。さらに、重いため施工・加工を行う現場作業者の負担が大きく、また持続可能な社会への取り組みに向けたリサイクル性も求められています。

このような背景を踏まえ、鋼鉄製に比べ軽量で加工性やメンテナンス性・施工性に優れた特長を持ち、またリサイクルにも配慮した衝突回避の視認材を開発しました。

## 屋外家具ブランド「Fandaline (ファンダライン)」に新たな3アイテムを追加しました

2023年  
1月16日

株式会社グランドレベル(東京都墨田区 代表取締役 田中 元子)と2021年10月1日に発表したコラボレーションブランド「Fandaline(ファンダライン)」に新アイテム3種類を追加しました。「ファンダライン」は、自然と人々を迎え入れてくれる普遍的で優しいデザインを心掛け、大きな広場から建物の軒先まで、さまざまな「まちの1階」に人が自由に居られる場所を提供することを目標にした、新しい屋外家具ブランドシリーズです。初期ラインナップとして、背ありベンチ、背なしベンチ、テーブル、プランター、ポスタースタンドの5つのプロダクトの販売をすでに開始しており、今回新しくベンチ2種とプランター1種を追加します。今回のプロダクトは、既存のファンダラインのデザイン性を踏襲しながら、「より身近に、より使いやすく」をコンセプトに開発したベンチとプランターです。



## 2022年11月～2023年5月の主なTOPICS

### 三国湊エリア(福井県坂井市)の観光まちづくりを推進する新会社 「株式会社Actibase ふくい」(アクティブースふくい)を11社で共同設立しました

2023年  
2月3日

当社を含む11社で共同出資を行い、福井県坂井市三国湊エリアにおいて、地域活性化に資する観光事業を運営する「株式会社Actibase ふくい」の設立を本年2月に公表しました。

当社は「地域社会に貢献し環境共生型社会形成に寄与する」という企業理念のもと、本事業を通じて当社が培った技術を生かして、人が集い、環境と共生するまちづくりに貢献いたします。地域の方々ならびに出資各社様とも連携して、歴史ある三国港町エリアが未来へ受け継がれるよう、さらなる魅力向上や交流人口の創出に微力を尽くしてまいります。



### 乾式二重床「フリーフロアーCPシリーズ」のボルト原材料を、環境配慮型材料に変更しました

2023年  
2月9日



昨今、温暖化の影響による環境の変化が著しい中、2050年のカーボンニュートラルに向けた各国の動きが活発化しています。そうした中、日本の建築業界においてもサステナブル建材を求める声が高まってきています。当社では、独自の環境配慮型商品認証制度「Fukuvalue(フクバリュー)」を昨年8月に立ち上げ、リサイクル素材の使用やプラスチック使用量の削減など、環境配慮に関する社内基準を設けることで循環型社会に向け貢献していく取り組みを行っております。



この度、乾式二重床の主力製品であるフリーフロアーCPシリーズについて、全種類のボルト原材料を環境配慮性のある再生ナイロンに変更いたしました。今回使用する再生ナイロンは、海洋プラスチックゴミで問題となっている漁網や車のエアバック、結束バンドなどからリサイクルしたものを原材料としており、海洋汚染対策やCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献します。なお、本商品については、「Fukuvalue」の認証を取得しております。

### 個人投資家さま向けIR説明会を開催しました

2023年  
3月15日

コロナ禍前には毎年開催しておりました「個人投資家さま向けIR説明会」を、3年ぶりに野村證券福井支店<sup>\*</sup>にて開催いたしました。

当日は、50名ほどの個人投資家の皆さまにお集まりいただきました。初めに八木社長から当社の概要について説明があり、続いて豊嶋取締役<sup>\*</sup>からSDGs活動の概要、その後多比良経営戦略本部副本部長<sup>\*</sup>から第3四半期決算の概要説明を行いました。

会場入り口には、ハーツラスやプラスッド、フェノバードなどのサンプルを展示し、多くの投資家さまが実際に手に取ってご覧になり、当社製品に興味を持っていただきました。

今後もこのようなIR説明会を継続して開催し、情報の積極的な開示および投資家さまとの建設的な対話に努めてまいります。

<sup>\*</sup>2023年3月当時





## 当社の屋外家具ブランド「Fandaline (ファンダライン)」と朝日ウッドテック株式会社「the wall」のブランドコラボレーションを開始しました

2023年  
4月3日

朝日ウッドテック株式会社(大阪府大阪市 代表取締役社長 海堀 哲也)と、お互いのプロダクトをコーディネートして空間提案を行うブランドコラボレーションを開始しました。当社は公共空間向け屋外家具ブランド「ファンダライン」を2021年10月より販売開始しており、一方、朝日ウッドテック株式会社は、不燃認定を取得した壁・天井材「the wall 不燃タイプ」を2023年3月1日に発売しました。「ファンダライン」と「the wall 不燃タイプ」には、不特定多数の人が訪れる公共空間で使用できる性能を有する木素材であるという共通点があり、お互いのプロダクトをコーディネートすることで、より付加価値の高い空間を提案できると



考え、ブランドコラボレーションを行いました。2つのブランドが会うことで実現する空間は、「the wall 不燃タイプ」で仕上げられた不燃の壁・天井に、「ファンダライン」の人工木製家具が備えられた居心地の良い木の場所です。現代の技術により進化した新たな木素材による家具と仕上げ材のコラボレーションにより、強くてもやさいい木のぬくもり溢れる公共空間を提案します。

## 第7次中期経営計画(2023年4月～2028年3月)がスタートし、对外公表しました

2023年  
5月15日

本年度より当社グループの新たな中期経営計画「おしだ技術を押し出し、未来へワクワク」がスタートしております。5月の決算発表時に对外公表いたしました。詳しくは7～8ページをご覧ください。

## SDGs活動の2022年度KPI実績を公表しました

2023年  
5月15日

当社グループは2020年11月にSDGs宣言を行い、さらに2021年5月には具体的な数値目標を掲げ、今後定期的に進捗状況をお知らせしていくこととしております。このたび2022年度の進捗状況がまとまりましたので、お知らせいたしました。詳しくは9～10ページをご覧ください。

## 第7次中期経営計画(2023年度～2027年度)

# おしだ 技術を押出し、未来へ ワクワク

これまで培った樹脂加工技術を軸に事業領域を広げ、  
サステナブルな社会を創造します。

### 第7次中期経営計画基本戦略

#### 戦略1

#### 循環型ビジネス拡大

- ・プラスチックリサイクルへ事業領域を拡大し、循環型社会に貢献する
- ・環境配慮型商品のブランド展開とフクビの5R※実践によりグループの存在感を高める

※Reduce、Reuse、Recycle、Renewable、Revalue

#### 戦略2

#### 強靱な収益基盤構築

- ・当社の強みである、材料配合・成形加工技術に関するバリューポジションを更に拡大する
- ・社会のニーズに沿った商品開発や採算性を意識した事業PFの再構築、生産性向上による更なる原価低減を通じて付加価値を更に高める

#### 戦略3

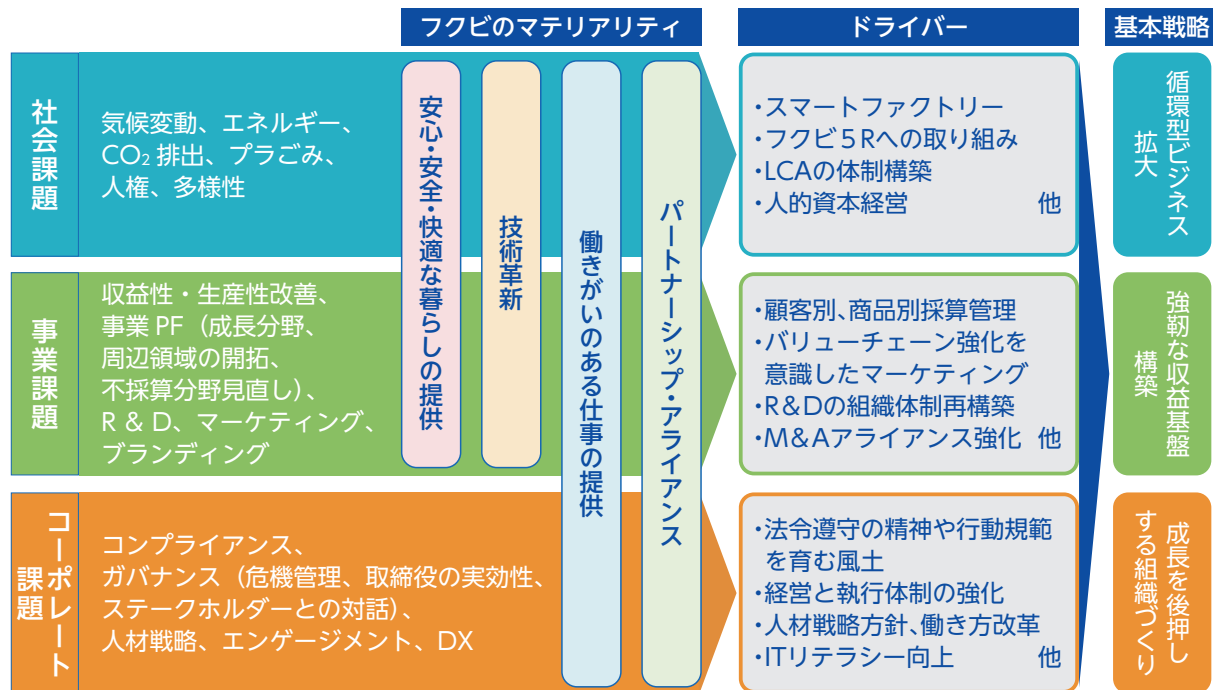
#### 成長を後押しする組織づくり

- ・人的資本への積極的取り組みにより、従業員エンゲージメントを高め、社員の力が最大限発揮できる清新な組織への改革を加速させる
- ・戦略を確実に実行するためのガバナンス体制を強化する



## ◆第7次中期経営計画の概要

マテリアリティと基本戦略の位置付け



財務・非財務KPI

主な財務KPI	<p><b>収益性</b> 【営業利益】</p> <p>27年度 <b>28</b>億円 30年度展望 <b>35</b>億円</p>	<p><b>資本効率</b> 【ROE】</p> <p>27年度 <b>6%</b>以上</p>	<p><b>財務健全性</b> 【D/Eレシオ】</p> <p>27年度 <b>0.4</b>倍以下</p>
	<p><b>CO<sub>2</sub>排出量</b></p> <p>30年度 <b>30%</b>削減 (2019年度比) (scope1 &amp; 2)</p>	<p><b>産業廃棄物</b></p> <p>30年度 <b>50%</b>削減 (2019年度比)</p>	<p><b>ダイバーシティ&amp;インクルージョン</b></p> <p>30年度 <b>20%</b> (管理職に占める女性の割合)</p>

# フクビグループ SDGsの取り組みについて

当グループでは2020年11月にSDGs宣言を行い、2021年5月に具体的数値目標を掲げて、今後定期的に進捗状況をお知らせしていくことといたしました。このたび2022年度までの進捗状況がまとまりましたので、お知らせいたします。

## フクビグループSDGs 4つの基本姿勢・マテリアリティ・KGI・取り組み



**マテリアリティ: 安心・安全・快適な暮らしの提供**  
**KGI: 安心・安全・快適を実現する製品開発の推進**



居住空間、公共空間、気候変動、地球環境、高齢者、子どもの観点から安心・安全な製品を開発し、これらの拡販を通じ社会課題を解決する製品を増やし、住み続けられるまちづくりに貢献する。

新商品累計15件

- 抗菌・抗ウイルス機能製品: 樹脂開口枠 抗ウイルス仕様
- 清潔で安心な室内環境を生み出す製品: プロテクトライン、クリーンライン
- 物流倉庫の安全に寄与する製品: フォークガード
- CO<sub>2</sub>の固定に有効な間伐材の活用貢献する建材: プラスッド-TM(東京の木多摩産材)



**マテリアリティ: 技術革新**  
**KGI: 資源循環の推進**



低炭素社会と資源循環型社会の実現に貢献する。

- 資源循環の構築: 環境ブランド「Fukuvalue」立上げ、2030年度累計30アイテムを目指し初期登録6アイテム、新規1アイテム(環境配慮型CP支持脚)登録
- 省エネ設備への切り替えによるエネルギー効率化の推進
- 過剰梱包材の削減



**マテリアリティ: 働きがいのある仕事の提供**  
**KGI: デジタルの活用推進 従業員エンゲージメントの向上**



従業員エンゲージメントを高め、多様性と働きがいある環境を実現させる。

- ERP導入PJ推進中
- ペーパーレス推進: 電子帳簿保存法への対応
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進: 採用女性比率35%
- 人材育成・活性化: 女性管理職2.9%
- 柔軟な働き方の推進: 在宅勤務利用率25%、男性育休取得率27%



**マテリアリティ: パートナーシップ・アライアンス**  
**KGI: パートナーシップによる価値の創出**



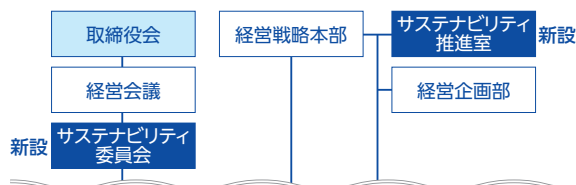
社外とのパートナーシップを高め、共通のテーマ・目標について協働することにより、自社のみでは達成しえない社会課題の解決に貢献する。

- 資源循環パートナーシップ 累計3件
- 調達先ガイドラインを確立し、評価実施

## サステナビリティ・ESG推進体制の強化

当グループではサステナビリティ委員会を経営会議の下部組織として設置し、その事務局、運営機能を主とするサステナビリティ推進室を立ち上げました。サステナビリティ委員会は、ESGに関する情報の収集・分析を行い、持続可能な企業であり続けるため、存在価値の向上に向けた方針、戦略の企画・立案・提言を行っていきます。

また、サステナビリティ推進室は、サステナビリティに関する情報の開示やステークホルダーとのコミュニケーションの強化など当グループのサステナビリティ活動の支援や資源循環の取り組みに関する企画を立案し、実行していきます。



## 2030年目標 (KPI)

### CO<sub>2</sub> 排出量の削減<sup>※</sup>

2019年度比 **30%** 削減  
Scope 1 & 2

### 産業廃棄物の削減

2019年度比 **50%** 削減

### ダイバーシティ&インクルージョンの推進

女性管理職比率 **20%**  
(管理職に占める女性の割合)

2020年度

▲18%  
22,000 [t-CO<sub>2</sub>]

2020年度

▲9%  
1,096 t 石油由来 726 t ▲8%  
廃プラ以外 370 t ▲10%

2020年度

1.5%

2021年度

▲22%  
21,000 [t-CO<sub>2</sub>]

2021年度

▲21%  
943 t 石油由来 601 t ▲24%  
廃プラ以外 342 t ▲17%

2021年度

2.8%

2022年度

▲26%  
20,000 [t-CO<sub>2</sub>]

2022年度

▲29%  
856 t 石油由来 532 t ▲32%  
廃プラ以外 324 t ▲22%

2022年度

2.9%

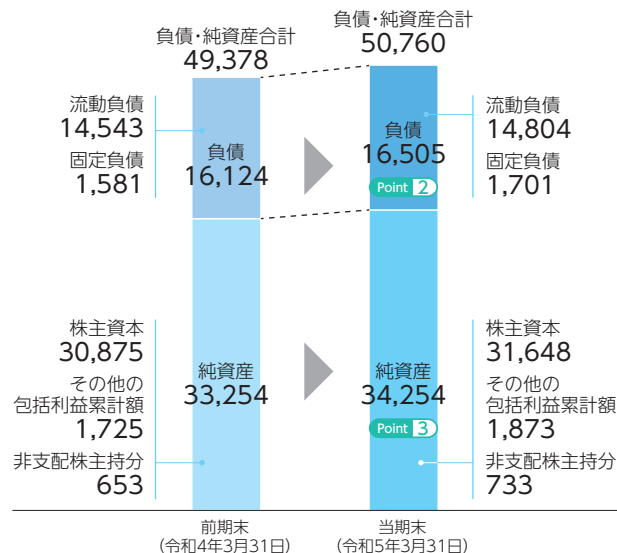
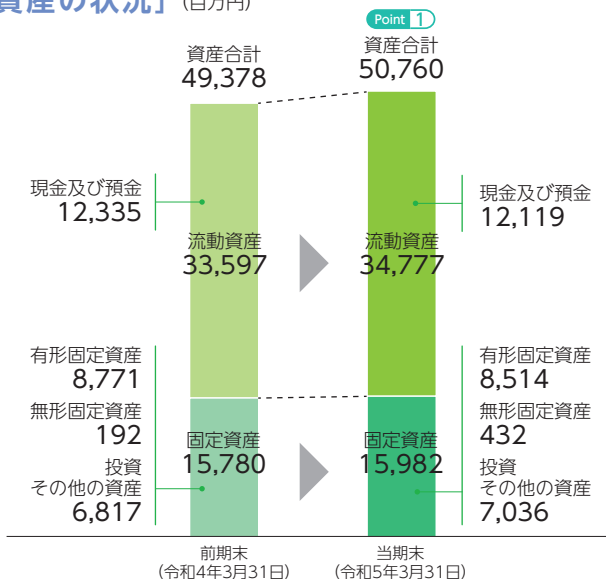
※ 2022年度よりフクビグループ全体でのCO<sub>2</sub>排出量を捉えることに変更。基準年度は2019年度。

### 90期(2023年度)強化方針

- 資源循環ループ構築など含め、パートナー探索
- 組織のサプライチェーン上の活動として、全体CO<sub>2</sub>排出量の評価方法確立

# 連結財務諸表の概要

## 【資産の状況】 (百万円)



## 資産の状況

### Point 1 総資産 (= 資産合計)

総資産は前連結会計年度末に比べ13億82百万円(前期末比2.8%)増加し、507億60百万円となりました。主な増減要因としては、流動資産では、現金及び預金が2億16百万円減少した一方で、電子記録債権が9億64百万円増加したことや、棚卸資産が3億43百万円増加したことなどにより、11億80百万円(同3.5%)の増加となりました。固定資産では、有形固定資産が2億57百万円減少した一方で、無形固定資産が2億40百万円増加、また投資その他の資産が2億19百万円増加したことなどにより、2億2百万円(同1.3%)の増加となりました。

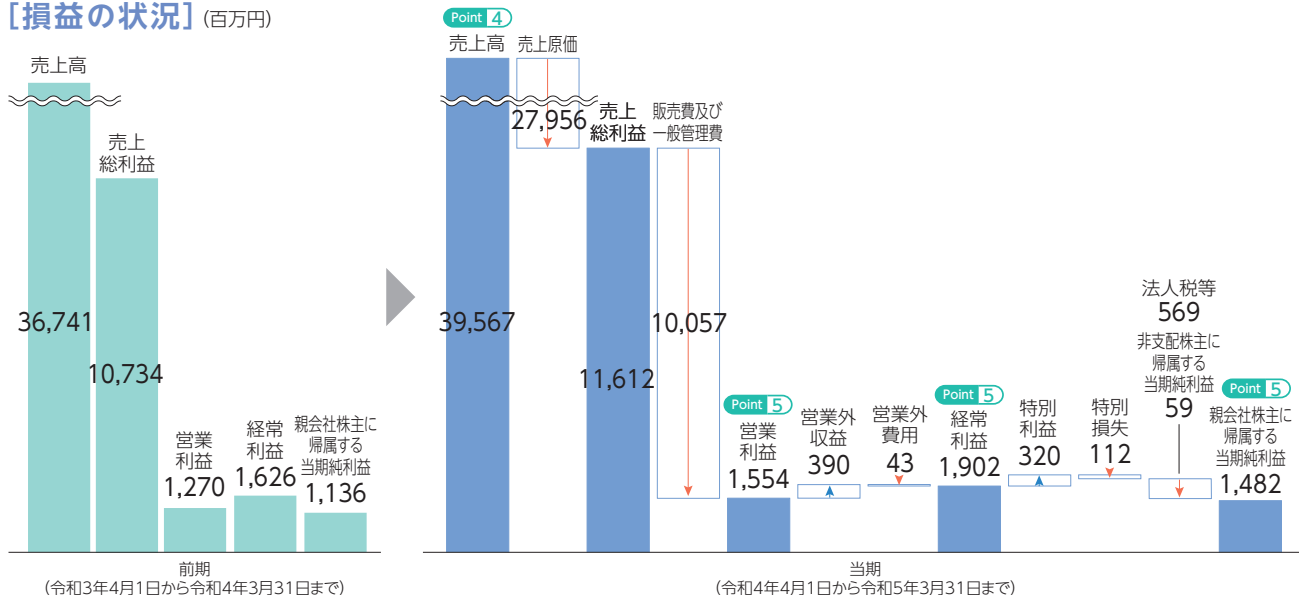
### Point 2 負債

負債は前連結会計年度末に比べ3億81百万円(前期末比2.4%)増加し、165億5百万円となりました。主な増減要因としては、流動負債では、未払金が1億34百万円減少した一方で、支払手形及び買掛金が3億9百万円増加したことや、賞与引当金が86百万円増加したことなどにより、2億61百万円(同1.8%)の増加となりました。固定負債では、借入金が34百万円減少した一方で、リース債務が1億8百万円増加、また繰延税金負債が37百万円増加するなど、1億20百万円(同7.6%)の増加となりました。

### Point 3 純資産

純資産は前連結会計年度末に比べ10億1百万円(前期末比3.0%)増加し、342億54百万円となりました。主な増減要因としては、退職給付に係る調整累計額が1億73百万円減少した一方で、利益剰余金が10億93百万円増加しました。株主資本合計は316億48百万円となり、この結果、自己資本は335億21百万円、自己資本比率は66.0%となりました。

## [損益の状況] (百万円)



### 損益の状況

#### Point 4 売上高

主力の建築資材事業では環境配慮型商品ブランド「Fukuvalue」の拡充に注力するとともに、新製品、既存製品問わず新市場に向けた販路の拡大に取り組みました。特に注力製品についてはデジタルマーケティング、ウェブセミナー、展示会を通じて、新たな顧客の開拓と関係強化に努めています。

製品別では、外装建材において樹脂製瓦葺「エコランバー」、住宅用防水部材「ウェザータイト」などが堅調に推移し、55億93百万円(前期比6.1%増)となりました。

内装建材においては、行政などの宿泊施設支援施策が後押しとなり、浴室用パネル「バスパネル」が好調に推移し、また、断熱材分野では、高性能断熱材「フェノパボード」、リフォーム用断熱材「フクフォーム」が順調な伸びを示した結果、127億44百万円(同8.8%増)となりました。

床関連材においては、床支持具「プラムレン」、樹脂系床仕上材などが好調に推移し、79億77百万円(同6.7%増)となりました。

システム建材においては、防蟻関連商材は伸び悩みましたが、一方で人工木材

「プラスッド」が好調に推移し、40億66百万円(同8.2%増)となりました。

産業資材事業の売上は、91億88百万円(同7.8%増)で、売上高全体の23.2%を占めました。住宅設備部材では、リフォーム需要の伸びと価格改定前の需要増により堅調に推移し、物流施設や倉庫・工場向け製品においては、フォークリフトの壁面衝突を防ぐ視認材「樹脂製フォークガード」が伸長しました。乗用車の車載向け精密化工品は、半導体不足や中国市場経済の停滞による影響から、受注は弱含みで推移しました。

以上により、当連結会計年度の売上高は、395億67百万円と、前期に比べ7.7%の増収となりました。

#### Point 5 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

利益面につきましては、収益性改善に向けた取り組みによる売上高総利益率改善と、経費抑制から、営業利益15億54百万円(前期比22.4%増)、経常利益19億2百万円(同17.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益14億82百万円(同30.4%増)となりました。

なお、特別利益として退職給付信託資産返還益1億89百万円を計上しています。

# 会社の概要

## 会社の概要

(令和5年3月31日現在)

創 立 昭和28年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

## 主要な事業品目

### 建築資材

外装建材	セミックス(窯業系不燃外装材)、左官定木、エコランパー、換気材、スーパーエアテックス(透湿防水シート)、土台パッキン、エクラート(FRP製外装装飾材)、ウェザータイト(防水部材)、耐震関連部材
内装建材	バスパネル(浴室用パネル)、見切、内装下地材、点検口枠、アルパレージ、樹脂開口枠、養生材、フェノバボード・フクフォーム・フクフォームEco(断熱材)、ケンジュール(人工大理石)、越枠(不燃手すぎ和紙化粧板)
床関連材	クッションフロア、床タイル、フリーフロア、乾式遮音二重床システム、OAフロア(フリーアクセスフロア)、機能束(ブラ束、鋼製束)
システム建材	エアサイクルシステム、リフォジュール(リフォーム天井システム)、アリダン工法(防蟻工法)、プラスチック(木粉入り樹脂建材)、メルツエンサッシ内窓

### 産業資材

樹脂サッシ	窓枠、浴室用ドア
産業機器	車両部材、住宅設備部材、機器部材、仮設部材、精密化工品

## 取締役・監査役、顧問

(令和5年6月21日現在)

代表取締役  
社長執行役員 八 木 誠一郎

代表取締役  
副社長執行役員 采 野 進

取締役 岩 淵 滋

取締役 諫 山 滋 三井化学株式会社  
参与

取締役 南 保 勝 仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科  
特任教授

取締役  
執行役員 小 林 俊 幸

常勤監査役 大 畑 忠

監査役 玉 井 三千雄 玉井公認会計士事務所長

監査役 藪 原 孝 夫 藪原孝夫税理士事務所長

顧問 森 克 則 三井物産プラスチック株式会社  
代表取締役社長

顧問 鎌 田 昌 利 長瀬産業株式会社  
取締役 兼 執行役員

顧問 豊 嶋 雅 子

# 株式の状況 (令和5年3月31日現在)

## 株式の状況

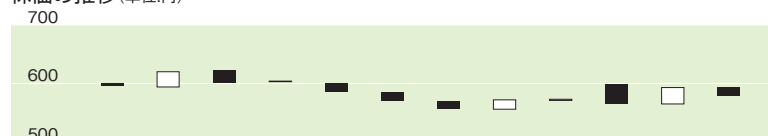
株式の総数	
発行可能株式総数	63,000,000 株
発行済株式の総数	19,856,328 株 (自己株式832,097株を除く)
当期末現在の株主数	3,549 名

## 大株主

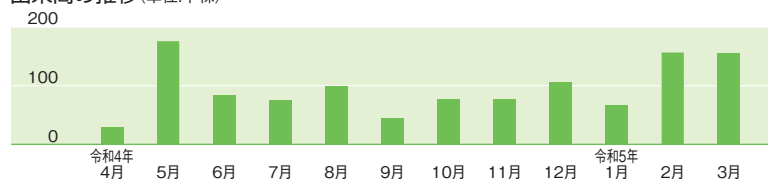
株主名	持株数
株式会社八木熊	2,574,140 株
長瀬産業株式会社	2,464,308
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・三井化学株式会社退職給付信託口)	1,855,885
三井物産プラスチック株式会社	983,220
八木誠一郎	739,703
株式会社福井銀行	710,300
昭和興産株式会社	669,573
株式会社北陸銀行	624,900
蝶理株式会社	600,382
八木信二郎	540,581

## 株価チャート

株価の推移(単位:円)

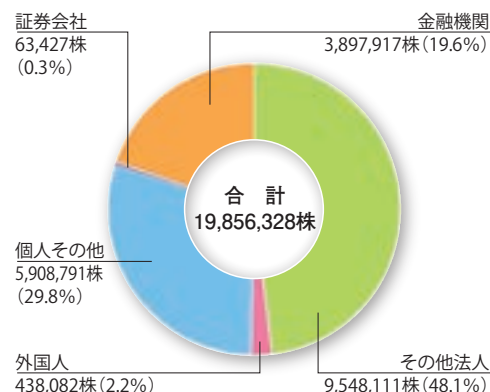


出来高の推移(単位:千株)

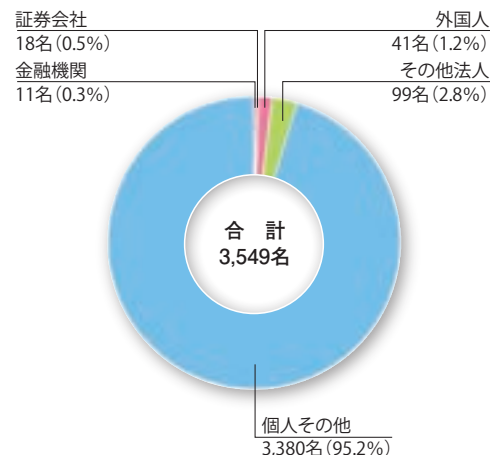


## 株主分布状況

### 〈所有数別〉



### 〈所有者別〉



## 企業理念

- ・化学に立脚し、新たな価値を創造、提案する。
- ・企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する。

## 中長期ビジョン

- ・新たな技術開発と市場創造に絶え間なく挑戦し、快適な社会の実現に貢献する。
- ・一人一人の成長と企業の成長が一体となることで、喜びを実感できるフクビグループを目指す。

## 株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当	3月31日
中間配当	9月30日
	※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
	<a href="https://www.fukuvi.co.jp/">https://www.fukuvi.co.jp/</a>
上場証券取引所	東京スタンダード市場・名古屋メイン市場

単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先（電話照会先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）

### ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。

